

「幼いころ、新聞は貴重な情報源でした」と話す宇宙飛行士の山崎直子さん(46)。子どもの時の思い出や気になるニュースなど、新聞との関わりを聞いた。

(長田真由美)

宇宙飛行士

山崎直子さん

言葉を追えば  
見えてくる

子どものころは、今みたいインターネットがない時代でした。情報はテレビや新聞、書籍から。その中でも、情報量が圧倒的に多いのが新聞でした。小学生のころ、惑星探査機「ボイジャー」が土星に最接近した記事が新聞に載りました。宇宙に浮かぶ土星の写真がとてきれいだっ

た。ちょうど近所にプラネタリウムができたので、母が見に行こうと連れて行ってくださいました。うれしかったです。大学時代、自宅で購読していたのが東京新聞(中日新聞東京本社発行)でした。サンデー版の大図解をよく読んでいました。毛利衛さんがスペースシャトルで宇宙へ行くとき盛り上がりだした時に、「宇宙開発新時代」をテーマにした図解が載りました。搭乗するエンデバー号の断面図が描

かれて、リアルタイムに図鑑を読む感じでした。この前、荷物を整理していたらちょうど切り抜いた新聞が出てきて、懐かしかったです。米国の大学に留学したときは、英語の勉強に英字新聞を活用したこともあり。教科書にない日常用語や生活で使う単語は、新聞が情報源。ネイティブの発音を知るためにクラスメートに記事を読んでもらって、録音したものを繰り返し聞いたこともあり

ます。最近気になったのは、令状なしに衛星利用測位システム(GPS) 捜査をすることの違法性に関する記事です。科学技術の進歩はとも速い、人工知能やコンピューター、

口ポット、自動運転。社会が追いついていないようにも思います。例えば、自動運転の事故の責任は誰が取るのか。今は宇宙から位置情報とともに鮮明な画像も撮影できるけれど、防犯カメラの映像と同様、活用することによる利点と、プライバシー保護とのバランスをどう取っていくべきか。技術には表と裏がある。技術は雇用できる面もある。技術と社会が足並みをそろえていかなくてはならないと、改めて考えさせられました。

新聞を読む時は、自分に関心のあるキーワードを追っていくかと思えます。私自身で言うなら、「宇宙」「技術」「エネルギー」「国際」。継続して読むと見えてくるものがあります。「なぜここで紛争が起きたか?」「何につまずいたのか?」が分かってくる。中学二年生の娘がいます。そろそろ新聞を読んでほしいなと思っていました。学校でも授業で新聞を切り抜いたり、作文を書いたりしているようですが、まだ難しい漢字も多いようです。でも、物事の背景が描かれたり、連載があったりと、深い洞察に基づいて記事が書かれています。娘は国内の政治や経済の動きに興味があるようなので、そんなニュースを目的付くところに置いてあげようかなと思っています。



紙面に目を通す山崎直子さん(いずれも東京都千代田区の中日新聞東京本社)

やまざき・なおこ 1970年、千葉県生まれ。96年、宇宙開発事業団(現宇宙航空研究開発機構=JAXA)に勤務。2001年に宇宙飛行士として認定される。10年にスペースシャトル「ディスカバリー号」に搭乗し、国際宇宙ステーションに滞在した。11年にJAXAを退職。現在は内閣府宇宙政策委員会委員などを務めている。



学生時代に切り抜いた宇宙関連の新聞記事

各界の著名人に新聞との関わりを聞く「読んでますか?」。随時、掲載します。

記事は正しい日本語で

新聞記事は、誰もが読めるように分かりやすい日本語で書かれています。新聞社は、国が示す国語の基準

などを参考に、使用する漢字や言葉を決めています。記者は、正しい日本語で書くために辞書で言葉の意

味を調べることがよくあります。学校の授業で、新聞記事が取り上げられる機会があります。内容のほかに言葉遣いにも注目してみるといいですね。

新聞とわたし

字を読むのが好きで、小学生から毎日、新聞を読んでいます。最近気になったのはトランプ米大統領の記事。入国禁止令が裁判所に一時差し止められ、猛反発しています。公民で「三権分立」を教わっていたころ。正

間違い訂正する姿勢を信頼

しく機能しているのになぜ?と不思議でした。中学生が政治家と議論を交わす記事があれば読みたい。若者なら、大人が言えないこともスバツと聞けるはず。自分なら安倍晋三首相に「トランプさんのこと、本当はどう思っていますか?」と尋ねてみたい。周りはネットニュースを読む人も多いですが、新聞を信用しています。新聞は間違った情報を流しても、きちんと訂正しています。そこに信頼感を持っている。(名古屋市長の内中三年)

狙うぞ 特ダネ!? たなかひさし

